

園名 新庄小学校附属幼稚園

はばたくなら③⑥

子どもの育ちをつなぐ幼小接続

～「色水を作ってあそぼう」1年生との交流を通して～

5歳児 10月

取組について

○本園では附属幼稚園ということを生かして、毎年小学校の児童と様々な交流を通してつながりをもつようにしてきた。昨年度はコロナウイルス感染症拡大のため予定していた行事や交流等行うことができず、園内での異年齢との関わりも十分にできなかった。このことを踏まえ、今年度は新たに幼小合同会議を設置し、「つながる」大切さを再確認しながら交流の内容・方法を工夫する。

○コロナ禍でも交流が実施できるよう、感染対策に留意しながら進める。

○例年、1年生の教室であさがおの花びらを使って色染め交流を行っている。この交流を通して、優しく教えてもらう喜びや1年生への憧れ、実際に教室の雰囲気を感じとることで様々な不安を解消し、小学校生活への意欲につながりたいと考えている。

○＜実践事例＞ 色染め交流活動の事前打ち合わせにより、感染予防の観点から放送機器を使っての交流に変更した。1年生が園児に向けて分かりやすく説明した動画を年長児が視聴し、今年度の色染め交流は幼稚園の保育室で行うことになった。

○小学校に学びをつなげる記録の工夫

・アプローチカリキュラムの作成

・「つなごう手と手を！」幼小交流活動シートの利用

・幼小交流を通しての個人の成長記録の作成

・保護者への啓発(取組のねらいを10の姿を通してわかりやすく伝える)

実践事例

＜ねらい＞1年生からの動画を見て、色水作りや色染めの仕方を自分達で試してみようとする。

10の姿 (子どものつづやき)

子どもの姿

★保育者の気付きや援助

①1年生からの『色水を作ってあそぼう』の映像を視聴する。



社会生活とのかかわり

色染めて何？

映像が始まると本園の卒園児を見つけては喜び、口々に名前を挙げて盛り上がった。
説明が始まると、今度は言葉少なに食い入るように見ている。

★親しみを感じて、どのようなのか期待をもって視聴している。

1年生からのビデオ、わくわくする

OO君だ！知っている！

②和紙を用意し、自分の名前を書く。

図形や文字

・ほとんどの子どもは、自分の名前を書くことができていた。「書けない子は先生に書いてもらってね」と1年生は言っていたが、自分の名札を見ながら自分で書く姿が見られた。

自分で書けるよ！

★自分で何とかしようと、工夫する姿が見られるので、見守る。

③和紙を三角か四角に折る。(3～4回)

私は三角にしよう

・角を丁寧に合わせ集中しながら折る姿が見られた。

★1年生が動画で言っていたことをつづやきながら進めている姿を見守る。

④ビニール袋に解凍したアサガオを入れて、揉む。

(交流時期が遅くなるのでアサガオの花を冷凍しておいた。)

豊かな感性と表現

自然との関わり 生命尊重

・用意したアサガオだけでは、十分な汁が出ず、「上手くできない」とつぶやく姿が見られた。「水を入れたら？」と提案があり、少量の水を入れることにした。
・水を入れることで、適量の色水を作ることができた。

色水ができてきた！

★子どもが工夫しているところを周りの子どもに知らせる。

⑤アサガオの色水をカップに入れる。

言葉による伝え合い

・水をカップに入れる際に、ハサミで袋の先端を切るといいのではないかとことに気付く。
・爪で袋に穴を開けている子どももいた。

袋の上をくっつけてしまったから、ハサミで切ってカップに入れよう。

★考えて気付いたことを周りの子どもにも知らせる。

⑥和紙を色水につけ、染み込ませる(2～3秒)

思考力の芽生え

・ゆっくりと丁寧に和紙を広げる。

⑦出来上がった染め紙を干す。

・ゆっくりと丁寧に広げていく途中で、きれいな模様が出てきたことに笑顔が見られた。
・「OOちゃんと違う！」と友達と自分の模様が違うことに気付く。

★染め紙をみんなで見ながら、色々な形の違いの面白さに関心を向けられるようにする。

⑧和紙を色水につけ、染み込ませる(2～3秒)

1, 2, 3

・和紙の角を「1, 2, 3, 」と数えながら色水につけて染み込ませていった。和紙が色水でじんいく様子を嬉しそうに見ている。
・「3秒数えたら、全部に色がついた」と、「3秒では長いのでは」という声も出た。

★子どもの気付きに共感し、もう一度試すことができるようにする。

⑨アサガオの色水をカップに入れる。

・「もう一回やりたい！」「次は四角でやってみる」と活動を繰り返し楽しむ姿が見られた。
・1年生に教えてもらったことを自分でできたという喜びも感じられた。
・教えてくれた1年生にお礼がしたい！と発言する。

＜考察＞

・これまでのアサガオの色染めとは違い、今回は1年生からの動画を視聴してから色染めを行った。今までの対面交流では、そばで1年生が細かく教えてくれたので、困ったり考えたりすることは少なかった。しかし、先に動画を見て1年生が言っていたことを思い出しながら進めたり、動画を停止したりしながら確認して進めることで、振り返る時間が増え、自分の気付きや思いを話す子どもがいた。

・小学校の先生と一緒に色染め活動の進め方の話し合いを重ねる事ができた。様々な状況が重なり、色染め交流の時期がずれたことが反省である。

・今年度は新たな交流の仕方ができたと思う。今後、コロナウイルス感染症が収まった時、今回のことを生かしてどのような交流の形にしていくかを、小学校の先生と話し合い、進めていくことが必要である。



小学校に学びをつなげる記録の工夫

「アプローチャリキュラムの作成」一部抜粋 幼小合同会議で活用 小学校スタートカリキュラムにつなげていきたい。

活動	仲よしパーティー	お礼のお手紙	小学校探検(1年生に会いに)	あさがおの色染め
1年生の姿	卒園生がいることで、1年生に親近感をもつ姿がある。	子どもから手紙を書きたいと言う声が出る。	1年生に感謝の気持ちを込めて手紙を渡す。	「始めは紙に名前を書いて言ってたね。」 「紙の折り方は三角でも四角でもいいって言ってた！」と思い出しながら進める。
保育者の気づき		感性		思考・文字 言葉・感性
活動	メダカプロジェクト	お礼のお手紙を渡す	タニシ VS メダカ	
子どもの姿	5年生からプレゼントしてもらったメダカの赤ちゃんを「かわいい!」お世話頑張る」と喜ぶ。	子どもから手紙を書きたいと言う声が出る。	エサやり当番が、タニシがメダカを食べている様子を発見する。「タニシってメダカ食べるの?」「5年生に聞いてみる?」ビデオに撮って質問することになった。	
保育者の気づき		感性		
活動	バケツ田んぼ作り		タニシのことについて動画が届く。	稲刈り見学
子どもの姿	5年生に教わりながら、お米の苗を植える。			5年生が稲刈りをする様子を見学させてもらったので、やり方を思い出しながら、自分では教えてもらって稲刈りをする。
教師の気づき	自然・社会		社会・自然	社会・自然・自立

「保護者への啓発」一部抜粋

子どもの姿が小学校の学びにどのようにつながっているのかなどわかりやすく掲示する。

アサガオを使って色染めしよう!

10月

感染予防のため、放送機器を使って交流しました!

1年生みたいにうまくなるかな

いろんな模様が出来たよ!

思考力の芽生え

言葉による伝え合い

先生!タニシがメダカを食べている!!

ビデオに撮って、質問しました。

タニシはメダカを食べますか?

エサやり当番が発見!

メダカプロジェクト

「つなごう手と手!」幼小交流シート

ねらいを確認し、交流活動の保育者・教師間の事前・事後の打ち合わせのために使用している。

実施時期	令和3年9月8日(水)9:40~11:00(2.3校時)	場所	小学校1年各教室
交流活動の名称	色水を作ってあそぼう	小学校の位置づけ	生活科
交流活動のあらまし			
幼稚園			
ねらい	○1年生に色水作りや色染めのやり方を教えてもらいながら作る。(10の姿から捉える)	○幼稚園のみんなに色水作りや色染めのやり方をわかりやすく教える。	
評価規準	・身近な自然物を使って、遊びを楽しむ。(自然とのかかわり・生命尊重) ・紙の折り方によって、いろいろな模様ができることに気付く。(思考力の芽生え) ・体験したり感じたりしたことが伝わるように言葉で表現する。(思考力の芽生え・言葉による伝え合い) ・1年生からの動画を喜び、親しみや憧れの気持ちをもつ。(社会生活とのかかわり)	・色水の作り方や染め方を理解し、幼稚園のみんなに教えている。(知識及び技能) ・染め方によっていろいろな模様ができることに気付いている。(思考力・判断力・表現力等) ・幼稚園のみんなにわかりやすく教えようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
交流前	○園庭のあさがおで色水ができることを知る。 ○好きな遊びの時間に自分の方法で色水遊びをする。	1. あさがおを育てる(一人一鉢)。 2. あさがおの花びら・種などを集める。 3. 色染めのやり方を知る。	
交流の実際	1. 各活動場所(各クラス)に集合する。 2. 挨拶をする。 3. 色水遊びの説明をする。 4. グループに分かれて色染めをする。 5. 片付けをする。 6. 感想を交流し合う。	準備物	・あさがおの花びら(冷凍したもの) ・カップ ・和紙 ・新聞紙 ・ぞうきん ・色染めの仕方を示す画像(テレビに映す)
成果と課題	☆園児 ※児童	保育者・教師	
成果と課題	☆動画を見て、子どもが気付いたことや、実際にやってみながらうまくいかないところを取り上げ、みんなで考えながら色染めを進めていくことで試行錯誤する姿が見られた。また、例年では小学校の雰囲気や緊張して自分の思いや考えを言えない姿が多く見られたが、今回は保育室という親しみのある環境で行ったことで、子どものつづきを多く聞くことができたと思われ、これまでの交流とは違った姿が見られた。 ※動画を送ったことに対して、園児からビデオメッセージが返ってきたことに嬉しそう姿が見られた。	○コロナの感染拡大のため、動画視聴の時期が10月中旬にずれってしまった。そのため、あさがおの色水遊びにつなげることが難しくなった。子どもからは「違う花で色染めができるんじゃない?」という気付きもあり、実際に違う花でも色染め遊びをしてみたが、色が付かなかつたり、気温が急に下がったので、水を使った遊びが発展しにくかつたりした。今後は、遊びの発展のことを考えながら、幼小の活動計画を立て、子どもの経験が深まるようにしていきたい。	

幼小交流から見えてくる個人の成長記録

【小学生との交流活動を通して、変化が見えてきた子どもの姿について】

名前	交流前の姿	幼小交流の姿	子どもの変化
H	・友達と一緒に活動するよりも自分のペースで遊びや興味のあることをしていることが多かった。	・5年生と一緒にお米を植えてから、苗が育っていく様子を気に掛けることが多くなり、生長の様子を保護者の人と話すことも多かった。【⑨言葉による伝え合い】 ・雨が降り続いた日に、お米の苗に傘をかけて、バケツの水が溢れないように工夫したり、教頭先生のように対応したらいいかを電話で聞いたりする姿があった。【⑩協同性、⑪社会生活との関わり】 ・バケツの水が溢れないように、水をすくう時にはどのような大きさの道具がいいのかを砂場の用具から探す姿も見られた。【⑩数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚】	・家でもバケツ田んぼでお米を育てていることもあり、お米に大変関心を寄せている。 ・マイペースに遊んでいる姿が多かったが、お米の事に関しては友達に自分の考えを伝えることもあったり、一緒に活動する姿も出てきた。 ・お米の花が咲いてきたことにも気が付き、関心をもって話を続けている。

(まとめ)

・コロナ禍ではあるが、工夫しながら交流活動を行うことができた。子どものいろいろな気付きや思いを丁寧に受け止めながら保育を進めていくことが、子どもの育ちにつながることを再確認できた。また、保育者同士でその育ちを共有しながら、どのように保育を進めていくのか話し合い、個々に応じた保育内容を考えていきたい。

(成果)

・『色水を作ってあそぼう』の1年生との交流は、動画視聴を通しての活動となった。例年行っている対面での交流では緊張し、自分の思いを伝えにくい子どもの姿も見られたが、今年度は動画視聴を行うことでより子どもの自主性が発揮され、新たな気付きや発見につながった。

・アプローチャリキュラムについては表にまとめることで、交流活動から子どもの成長する姿が見えてきた。また、10の姿を当てはめることで、どの部分が育っているのかも保育者同士で共有することができる。小学校の先生方に幼児期の育ちを知ってもらい、幼小接続の必要性をより意識してもらおう大切さが分かった。

(課題)

・様々な学年とさまざまな方法で交流活動を行う中で、今年度はこれまでとは違った子どもの気付きや、考えが出てくる場面があった。こうした子どもの姿を来年度以降にカリキュラムにどのように取り入れ、進めていくのかを今後も小学校の先生方と検討していきたい。

・幼小交流活動計画については、新型コロナウイルス感染状況や互いの行事の状況を考えながら、季節に合ったものとなるように、見直しをもって話し合いを進めていきたい。

・幼小交流を基に自発的な遊びが発展するように環境を整え、子どもの経験が豊かになるようにしていきたい。